

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2023年 2月 9日

事業所名:発達支援さくらボViitta

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用者の年齢、支援内容に応じて訓練室を使い分けている。スペースは1人あたりに必要な面積の基準を遵守している。	はい:80.6%、どちらともいえない:13.9%、わからない5.6% 部屋がきちんと分かれている。運動や手遊び、工作などではスペースが確保されている。家で過ごす雰囲気に近い。集団では手狭。	備品・什器類の配置も検討し、十分な訓練スペースの確保をしていく。
	2 職員の適切な配置	児童10人に対し指導員2人という配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置を行なっている。保育士・作業療法士・音楽療法士・教員免許保有など児童、福祉分野での専門性を備えたスタッフ配置に努めている。	はい:88.6%、わからない11.1%。 職員の人数が多いので安心して預けられる。専門的見地から丁寧な療育を提供いただいていると感じる。	引き続き十分な職員配置により、質の高い安全な療育の提供を心がける。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	視覚的にわかる指示を掲示・提示している。施設は2階建てで、現状はバリアフリーに対応できていない。	はい75%、どちらともいえない5.6% わからない19.4%	事故防止のみならず、情報伝達などに配慮した設備整備を検討していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	整理整頓に努め、掃除のチェック表を作成して清潔環境を維持している。	はい97.2%、どちらともいえない2.8% 写真を見ると、片付けが行き届いている	引き続き、清潔で心地よい生活環境の確保に努める。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	管理者会議を月に2回、支援者会議を月に1回開催し、業務や施設運営に関わる課題について検討する機会を設けている。		引き続き、PDCAサイクルを取り入れ、活動前後や定期的な職員ミーティングを実施する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない		必要時、実施を検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部研修への参加補助を実施し、令和5年度はペアレントトレーニング、SST、虐待予防に関する研修の受講を進めた。事業所内では事故防止・虐待防止の研修を年間2回以上実施している。		引き続き、ニーズに応じた外部研修の受講支援と内部研修を計画していく。職員の教育計画を立案する。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者へ30分から1時間程度のヒアリングを実施し、支援計画を立案している。	はい91.7%、どちらともいえない2.8%、わからない5.6% 保護者の意見や相談にも耳を傾けて、寄り添った支援をしてもらっている。困りごとと一緒に対応して下さる姿勢が心強い。	引き続き、丁寧な対応を心がける。客観的な評価指標の統一ができていなかったため、次年度の目標とする。子どもの支援に必要な項目が網羅できているか点検する。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用者の特性を丁寧に分析し、個別活動と集団活動を組み合わせた計画を立案し、活動を実施している。	希望が反映されており不満はない。ヒアリングがとても丁寧で、説明もしっかりしてもらえ。	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	経験則に基づいた計画立案であり、目標や支援内容が主観的な表現になっている部分があったため、共通のアセスメントツールの使用を開始した。	利用に際して細部まで聞いてもらえた。今の課題だけでなく将来のことまで考えて支援計画を立てくださりありがたい。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画会議を実施して、支援に関わる職員全員で計画立案に参画し、目標と支援内容を共有している。	はい91.7%、どちらともいえない2.8%、わからない5.6% 子どもの特性を見て、いろんな場面での対処法を考えて色々工夫してもらっている。その時の成長や状況に応じて支援してもらっている。	引き続き、支援計画にスタッフの意見を取り入れ、個別性に応じた対応を心がける。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	支援リーダーとプログラム担当者の役割分担をし、支援に関わるすべての職員がプログラムに意見を出せる仕組みを構築中である。	はい:88.9%、わからない11.1%。 制作、身体を動かすなど色々な体験をさせてもらっておりありがたい。日々いろんなことをさせてもらって、子どもたちも楽しく通っている。毎回色々な取り組みをしていて子どもも楽しめている。	役割分担を明確にするとともに、すべての職員がプログラム立案に参加し、バラエティに富んだ活動を実施していく。引き続き個別性に応じた体系的なプログラムの提供を継続していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	月間・週間のプログラムを作成するとともに、長期休暇中の特別プログラムも考案している。	頭を使う支援・のびのびと身体を動かす支援とメリハリをつけてもらっている。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	継続的な実施と評価が必要な支援と、利用者が自由に選択することができる活動を使い分けている。		
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日、担当職員でミーティングを実施し、日々の活動計画を立案して役割分担をしている。担当は管理スタッフで決めている。		支援スタッフ同士で役割分担をして、日々の支援内容を主体的に考案していく体制にシフトしていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	適宜、LINEグループで情報共有を行うほか、月に1回の支援者会議、不定期に開催するミーティングにて支援内容の振り返りを実施している。		支援スタッフが送迎も行っており、早番スタッフは支援終了時間に退勤をするため、全員で毎日振り返りを実施する時間が確保できない。記録物の共有など代替手段を活用していく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	活動記録、日報の記録を徹底している。活動記録は紙面で保護者に提出し、1部保管と、クラウド上でも記録していつでも確認できるようにしている。		引き続き正確な記録の徹底を行ない、事例検討などの機会を活用して改善をしていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回以上のモニタリングにより、計画の見直しを実施している。保護者との直接のヒアリングができていない場合もあるが、すべての保護者に対して書面での聞き取りは実施できている。		利用者が多く、計画的なモニタリングを心がけていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	管理者、児童発達支援管理責任者、支援リーダー、保育所等訪問支援員のいずれか複数名で参加している	開催時には、管理者や児童発達支援管理責任者、担当者など適任者を選んで出席する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	児童発達支援から放課後デイへの移行、幼稚園や保育園、学校への移行が円滑にできるように、保護者を通して丁寧な情報共有を行うよう心がけている。必要時は保育所等訪問支援を併用して支援している。	保護者や相談支援員を通して、保育所・幼稚園、学校などの情報共有に務め、必要時、関係者連携の会議に参加をする。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現状では、対象の児童がいないが、就労支援事業所との連携を進め、見学などの機会を作る計画をしている。	高校生の利用者がいるため、卒業後や就労を見据えた支援を検討していくほか、就労支援事業所などとの連携を継続する。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の促進	地域自立支援協議会こども部会に、管理者と児童発達支援管理責任者が出席している。研修が開催されるほか、他の事業所や児童発達支援センターの職員と交流を図ることができている。	引き続き、協議会への出席をして情報収集と連携を図る。外部の専門機関での研修への参加を検討する。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	幼稚園・保育園に通いながら通所している児童が多く、事業所に通所中に保育所や認定こども園などとの交流は取り入れていない。放課後等デイサービスの利用者も同様である。	ニーズが高まれば機会の提供を検討する。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	開所して1年間は外部との交流はほとんどなかったが、消防署・博物館への見学、買い物体験など地域との交流ができるイベントは実施した。	幼稚園後にも利用しており、訪問支援もしてもらって、幼稚園でも施設でも守って下さっている安心感がある。今は必要性は感じない。 地域住民との交流の機会を検討する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に、重要事項説明書に沿って、支援内容と費用負担について説明している。	はい100%。 きちんとその都度連絡をいただいている。丁寧な説明をいただきわかりやすい。	引き続き、契約時の丁寧な説明をしていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画立案後にできるだけ対面で計画を用いて支援内容を説明している。	はい100%。 性格や特性を踏まえて接していることがわかる。きちんと説明をしてもらっている。	引き続き、丁寧な説明を実施していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	数名の保護者に対し、継続的なペアレント・トレーニングを実施している。周知はできていない。	はい:30.6%、いいえ11.1%、 どちらともいえない19.4%、わからない38.9% 困りごとにすぐ個別に相談に乗ってもらえているので、現状で満足している。	対象の保護者だけでなく、希望する保護者が受けられるよう、周知していく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	必要に応じて、個別に相談の時間を設けている。モニタリング時にはアセスメントの結果を提示し、目標設定など共通理解を図っている。保護者の児の障害特性の理解にズレが生じているケースも見受けられるため、丁寧な対応を心がけている。	はい:80.9%、どちらともいえない8.3%、 わからない12.8%。 その日の様子をLINEで伝えてもらえるので安心して預けることができる。毎回プリントにも記録してくれ、連絡事項を伝えることもできて使いやすい。送迎の際にも色々伝えてくださるのでわかりやすく安心している。	アセスメント指標をわかりやすく改善し、共通理解が図れるよう工夫していく。また、障害特性や支援について保護者の理解を深められるような研修を企画する。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	希望に応じて、公式アカウントや電話で相談を受け付けている。また、定期的にモニタリングを実施し、相談の時間を設けている。	はい:83.3%、どちらともいえない2.8%、 わからない13.9% こちらの意見も参考にして一緒に対処法を考えてもらっている。相談事にすぐに反応していただき助かっている。事業所の取り組みを聞いたりできる機会があれば良い。	引き続き、丁寧な対応を心がけることに加え、相談対応体制を明確にし、公開していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	従たる事業所の設置に伴い、移動候補の利用者保護者に通知し、交流会を実施した。外部講師を招いてストレスマネジメントに関する研修を行ったため、関心のある保護者が参加した。一度のみで限定的な開催となった。	はい:25%、いいえ22.2% どちらともいえない13.9%、わからない38.9% 個人的には保護者会があっても参加はしない。時間が取れていない。保護者会などの交流があれば嬉しい。交流会があったことは後から知った。	交流希望のない保護者もいるため、任意参加で年に4回から6回の交流会を計画している。職員又は外部講師による講習と組み合わせ、参加への関心を高める。仕事をしている保護者も多いため、開催日時を工夫する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応体制を明確にし、契約時に説明している。苦情に対しての記録、報告ルートは職員に共有されており、適切な対応を心がけている。	はい:80.6%、わからない19.4%。 入所時に説明を聞いた。子どもが特定の子とトラブルになりがちな時に、度重なる相談にも嫌がらずにきちんと対応してくださる、今は笑顔で通えるようになって感謝している。	引き続き、苦情対応は丁寧に実施していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	保護者に公式アカウントの登録を依頼し、日々の活動を写真付きで報告しているほか、事業所や法人からの伝達事項をお知らせするツールや、保護者からの連絡を受けるツールとして活用している。	はい:94.4%、わからない5.6%。 LINEでも電話でも情報交換する機会を設けてもらっている。丁寧に配慮いただいている。利用報告書と送迎時に施設での様子を細かく伝えてくださるので安心できる。	引き続き、保護者とこまめな情報共有をしていく。送迎が保育園の場合は、月に1回は保護者と面談する機会を作る。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	運営面での通達や、長期休暇中の特別プログラムについては、公式アカウントで適宜発信している。ブログを週に1回以上更新することを心がけている。	はい:61.1%、どちらともいえない5.6%、 わからない33.3%。 時々ブログを見ている。LINEで活動の画像を送ってくださるのでありがたい。	ブログの更新を定期的実施していく。年間のスケジュールを年度始めに配布する。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	紙面の情報管理は徹底しているが、利用者の個人情報の口外について職員間で指摘があり、個人情報の取り扱いについて会議で検討した。	はい:86.1%、わからない13.9%。 特に不満はない。	情報管理について徹底していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	開設時に作成したマニュアルを職員には公表しているが、検証ができていない。保護者に対しては、都度、必要項目のみ通知している。	はい:63.9%、どちらともいえない8.3%、わからない27.8% 特別な対応(警報発令時、感染症)などはラインでも通知して下さり助かる。	マニュアルの検証・更新を行い、公表に努める。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	火災を想定した避難訓練を1回実施した。津波避難訓練は延期となっている。	はい63.9%、わからない36.1%。	すべての曜日の利用者が参加できるよう、避難訓練の回数を増やすとともに、公表していく。
	3 虐待を防止するための職員研修の機会の確保等の適切な対応	虐待防止委員会を設立し、研修を年に2回以上実施。障害者虐待対応力向上研修Aを在職職員全員が受講できるよう研修費用を負担した。		年に4回の虐待研修を継続して実施し、職員の知識の向上と維持に努める。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現在までに必要な事例がないが、未就学児の抱き上げに関しては、必要性和拘束との違いの判断について支援者会議で検討した。		事例が発生した場合には、支援者会議で十分に協議した上で、計画に記載し、実行する。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者からの申し出により、アレルギーのある児と対応方法に関して職員に周知している。		重篤なアレルギーの場合には、医師の指示書も求め、厳密な対応を行う。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット報告が数件上がっており、グループラインで共有している。報告が徹底できていない。		報告の徹底により、事例が蓄積すれば事例集を作成し、共有する。